

イネいもち病（葉いもち）の発生予測システム「BLASTAM（ブラスタム）」について



(ホームページ)

BLASTAM（ブラスタム）は、降雨や気温などの気象経過から、イネがいもち病に感染しやすい気象条件（感染好適条件）であるかどうかを判定し、葉いもちの多発生を予測するシステムです。

感染好適条件が広範囲にかつ断続的に出現した場合は、葉いもちが多発するおそれがあるため、地域の防除体系を考慮したうえで、追加防除の判断に活用してください。

なお、BLASTAMによる葉いもち感染好適条件の出現状況は、6月から8月まで病害虫防除所のホームページに掲載しています。

表 イネ葉いもち感染好適条件出現状況 (BLASTAM) のイメージ

アメダス地点	中通り											
	梁川	福島	二本松	船引	郡山	湯本	小野	石川	古殿	白河	東白川	
7月	11日	●	●	●	○	-	-	●	●	●	-	-
	12日	●	△	●	○	●	●	△	●	●	○	○
	13日	○	○	○	-	○	-	△	-	-	○	○
	14日	-	-	○	○	○	-	-	-	-	○	-
	15日	-	-	-	-	●	●	-	-	△	-	-

●：感染好適条件 ○：準感染好適条件
△：感染可能条件 -：感染好適条件を満たしていない

【安全農業推進部発生予察課 024-958-1709】

アグリカレッジ福島オープンキャンパス

本校に関心をお持ちの方は、高校生・保護者・教員等どなたでもご参加いただけます。皆様のご参加、心よりお待ちしております。

<日程>

- (第1回) 令和4年7月24日(日)
- (第2回) 令和4年7月30日(土)
- (第3回) 令和4年8月3日(水)

<場所> (各回共通)

アグリカレッジ福島 (福島県農業総合センター農業短期大学校)

<内容>

教育内容及び学生生活の紹介、施設・設備の紹介、体験実習等

☞詳細は、農業短期大学校ホームページをご覧ください。



(ホームページ)

【農業経営部教務管理 0248-42-4113】

技術移転セミナー&ラウンド農ふくしまWebについて

研究の成果として得られた技術を活用していただくため、技術移転セミナーを開催しています。開催内容等が決まりましたら、農業総合センターのホームページにてお知らせします。なお、各地域で開催することも出来ますので、お問い合わせください。

業務やイベントの紹介のほか、日常の出来事などを「ラウンド農ふくしまWeb」で発信しています。ぜひ一度ご覧ください。



(ホームページ)

【企画経営部企画技術科 024-958-1700】

掲載して欲しい記事、日頃知りたと思っている技術などの希望がありましたら、企画技術科までお寄せください。御希望は電話、FAX、メール、郵送いずれの方法でも受け付けます。(次回は令和4年11月発行)



(メール)

編集/発行：福島県農業総合センター
〒963-0531
郡山市日和田町高倉字下中道116番地
TEL 024-958-1700 FAX:024-958-1726
E-mail:nougyou.jouhou@pref.fukushima.lg.jp
https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200a



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

- 研究紹介 P.2
-イチゴ新品種「福島ST14号」誕生-
- 研究紹介 P.3
-リモコン操作式高能率法面草刈機を開発しました-
- 研究紹介 P.3
-雑草イネ防除には丁寧な代かきが重要です-
- 研究紹介 P.4
-コギクの蕾の大きさを2回測ることで開花日を予測できます-
- お知らせ P.4



イチゴ新品種「福島ST14号」の調査 (野菜科)

イチゴ新品種「福島ST14号」誕生！



成果詳細はこちら

イチゴの新品種「福島ST14号」を育成しました。交配親は、収量性が高く炭疽病に強い「かおり野」と、良食味で果皮が硬い「とちおとめ」です。2012年に交配を行い、2013年に定植した5433個体の中から10年をかけて育成しました。

特徴は、①期間を通して糖度が高く、良食味。②果実は長円錐で鮮橙赤（オレンジがかった赤）、3L以上の大果が多く、奇形果が少ない。③収穫開始時期が早く、年内収量が確保できる。④厳寒期でも草勢が維持され、果房長がやや長く、栽培管理しやすいことです。

4年間かけて、県内各地延べ20カ所で現地試験を行い、生産者からは「香りが強く、食味が良い」「収穫開始が早く、大果が多い」と良好な評価をいただきました。

令和4年度は栽培マニュアルを作成し、先行栽培が開始されます。今冬に名前の発表とともに一般販売が開始されます。



図1 福島ST14号の果実外観及び断面(左) ※右は、比較として「とちおとめ」を掲載



図2 福島ST14号の着果状況

表 頂果房の開花日・収穫開始日、1株当たりの収量及び果実品質(2020年11月～2021年5月、高設栽培)

品種・系統名	開花日	収穫開始日	年内収量 ¹⁾		合計収量 ²⁾		大果率 ³⁾ (%)
			果数(個)	収量(g)	果数(個)	収量(g)	
福島ST14号	11/10	12/17	3.6	90.5	35.3	538.7	42.9
とちおとめ	11/14	12/28	0.7	24.6	32.8	500.6	38.0

1) 2020年11月～12月の規格内収量(奇形果を除く6.0g以上の果実)

2) 2020年11月～2021年5月の規格内収量

3) 3L以上果実収量/規格内収量×100

【作物園芸部品種開発科 024-958-1721】

リモコン操作式高能率法面草刈機を開発しました



成果詳細はこちら

法面草刈り作業の省力・軽労化のため、2019年から2021年まで農業機械技術クラスター事業を活用し、(株)IHIアグリテック、農研機構(農業機械研究部門、西日本農業研究センター)とリモコン操作式高能率法面草刈機開発の共同研究を行いました。

本草刈機は、軽トラックに積載可能で、最大45°の急傾斜法面での作業ができます。作業能率(作業面積/時間)は約10aで、市販の草刈機の2倍以上の能率です。

本草刈機は、2022年6月に(株)IHIアグリテック(商品の問合せ先:営業部 芝草グループ TEL:0123-26-1123)から市販される予定です。

詳細については、外部サイト(<https://www.ihico.jp/iat/news/2021/i/pr220215.pdf>)を参考にしてください。



図1 リモコン操作式高能率法面草刈機



図2 作業の様子

【会津地域研究所 0242-82-4411】

雑草イネ防除には丁寧な代かきが重要です



成果詳細はこちら

雑草イネは、栽培イネ(一般的なイネ)の収穫物に混入すると検査等級の低下をもたらします。また、除去に手間がかかることから問題となっています(図1)。

雑草イネの防除は、効果のある除草剤を2回または3回散布する体系防除を基本としますが、除草剤だけでは雑草イネを十分に防除することができません。

そこで、雑草イネ発生の特徴をふまえて代かきによる防除増進効果を検討しました。

雑草イネの多くは土壌の深さ0~1cmにある籾から発生していました。

そこで、浅水で「丁寧な代かき」(ほ場の長辺方向、短辺方向、長辺方向の3行程)を行うと雑草イネの籾を2cmより深く埋め込むことができ、「慣行代かき」(ほ場の長辺方向と短辺方向の2行程)に比べて雑草イネの発生本数を37%に減らすことができました(図2)。

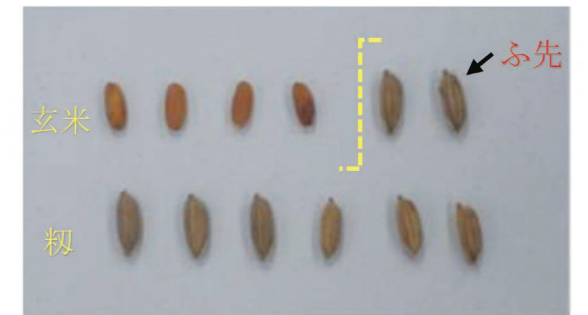


図1 雑草イネの籾と玄米(玄米色、ふ先色は赤色)

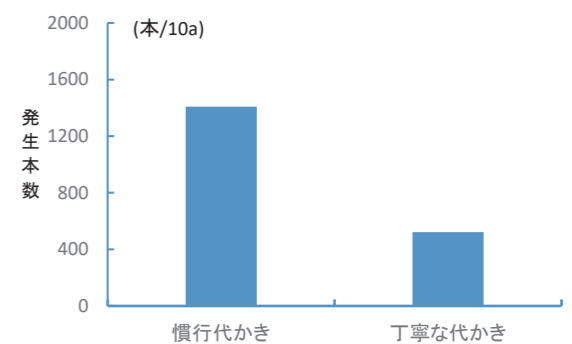


図2 雑草イネの残草量 (注)雑草イネに効果のない除草剤を使用

【作物園芸部稲作科 024-958-1722】

コギクの蕾の大きさを2回測ることで開花日を予測できます



成果詳細はこちら

県内で多く生産されているコギクは、盆や彼岸に需要がありますが、ほとんどが露地栽培であるため、気象条件によって開花日がばらつきます。

そこで、発蕾後のコギクの蕾の大きさを2回計測することで開花日を予測し、適期に咲くか確認する方法を開発しました。

開花予測の手順

事前準備 着色径を把握する

品種ごとの着色径を把握するため、前年までに10枝以上、頂花の着色径を測り、平均値を計算する。



計測の様子



頂花の着色径を計測

Step 1 計測個体を選ぶ

平均的な生育の枝の花蕾を10個体以上を選ぶ。選んだ個体の枝にラベル(※1)をつける。

Step 2 花蕾径を計測する

花蕾径が3mmを超えたら、頂花の花蕾径を計測し、記録する。1回目計測日から、約7~14日後に2回目を見る。

Step 3 着色日を算出する

① 1日あたりの花蕾径の肥大速度(mm/日)を算出する。
(2回目測定花蕾径-1回目測定花蕾径) / (2回目の測定日-1回目の測定日)

② 着色日を算出する。
2回目の測定日 + ((品種ごとの平均着色径 - 2回目測定花蕾径) / ①)

①~②の計算を行い、各個体の着色日、全体の平均着色日を算出する。

Step 4 開花日を算出する

Step 3で求めた着色日に、着色から開花までの日数(※2)を足し、開花日を算出する。

※1 個体ごとに番号を書いたラベルをつけ、同一番号を1回目、2回目ともに測る

※2 多くの小ギク品種は着色から開花までに2~3日を要する

Q:なぜ蕾の大きさを測ると開花予測できるの?

A:調査の結果、蕾の大きさ(花蕾径)は、小さいうちは気象条件によって肥大速度が変わりますが、約3mmを超えると、着色するまではほぼ一定の速度で大きくなるのが分かりました。

そのため、着色期の花蕾径を把握した上で、花蕾径を2回測り、肥大速度を算出することで、開花日が予測できます。

Q:予測できる品種は?

A:盆咲き品種の「花の舞」や、彼岸咲き品種の「せせらぎ」などで精度の高い開花予測が可能です。

図 開花予測の方法

【作物園芸部花き科 024-958-1725】